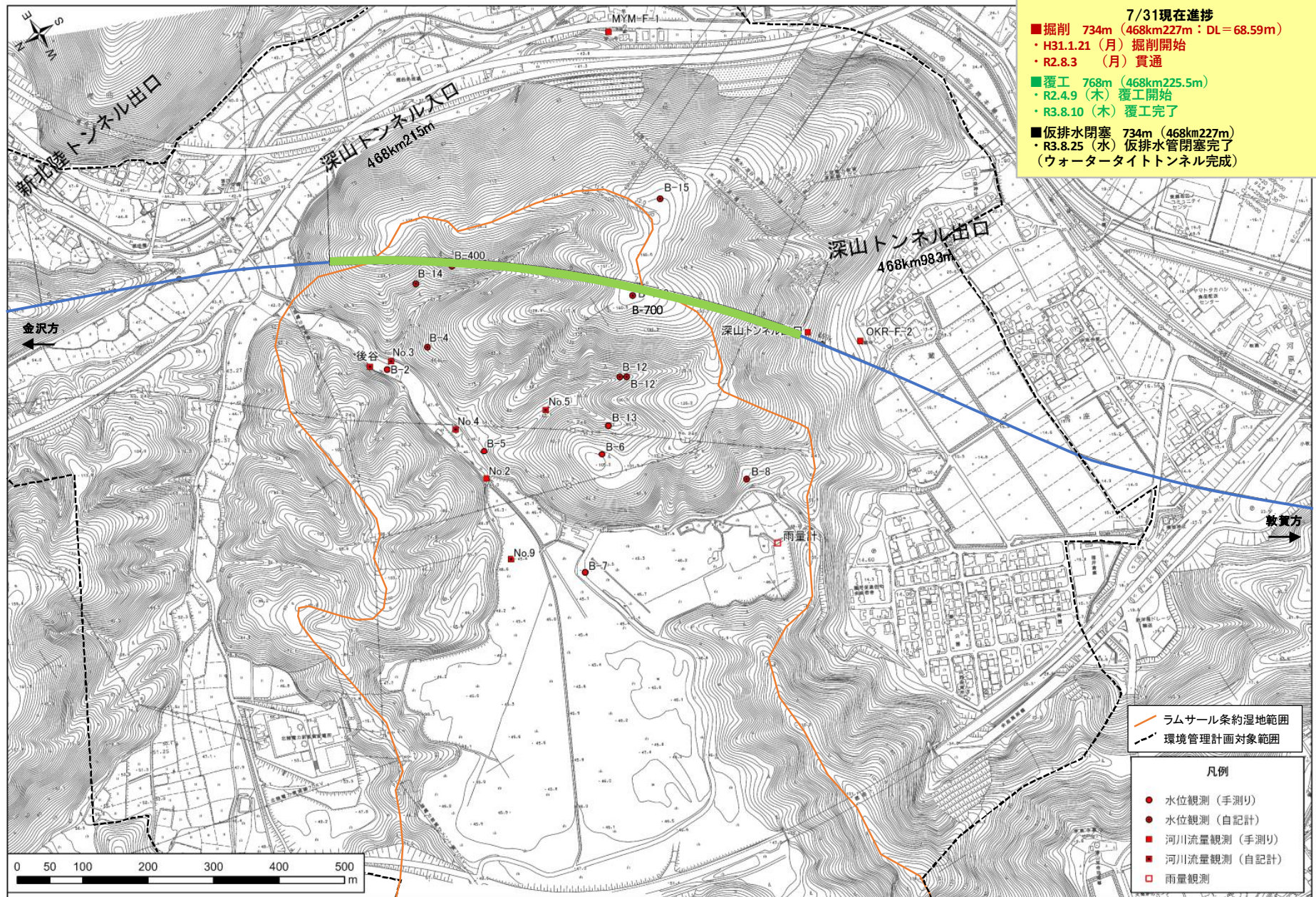


深山トンネル水文調査モニタリング報告書

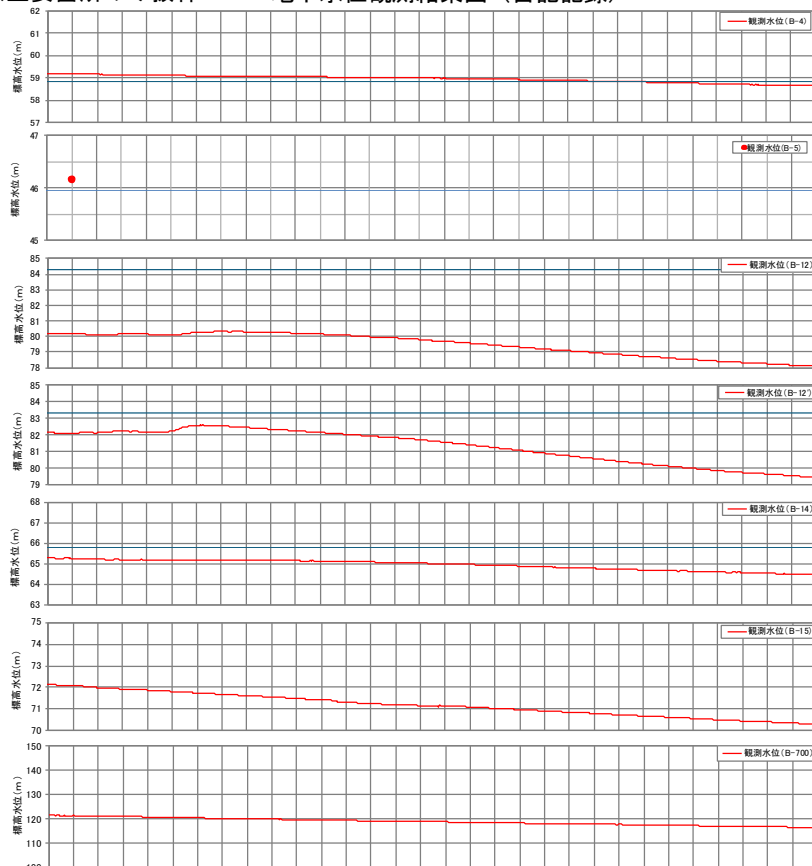
調査期間：令和8年7月1日（水）～令和8年7月31日（金）

「北陸新幹線、中池見湿地付近深山トンネル等工事に係る環境管理計画」に基づき実施している水文環境モニタリング結果について報告する。

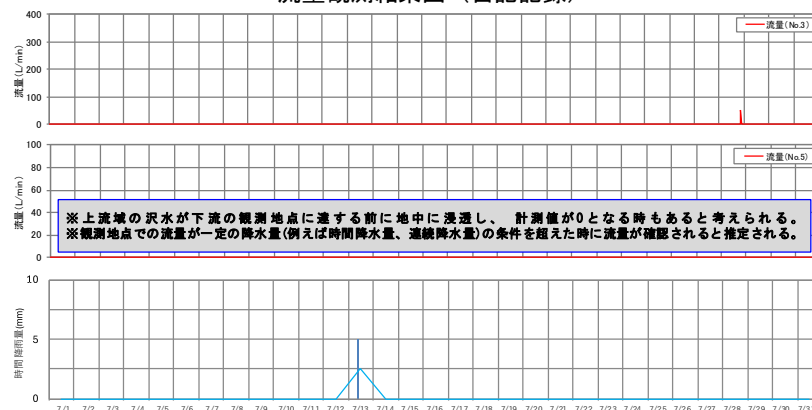


※主要箇所のみ抜粋

地下水位観測結果図（自記記録）



流量観測結果図（自記記録）



B-4 地下水位
過年度最低水位
58.8m

B-5 地下水位
過年度最低水位
46.0m

B-12 地下水位
過年度最低水位
84.3m

B-12' 地下水位
過年度最低水位
83.3m

B-14 地下水位
過年度最低水位
65.8m

B-15 地下水位

B-700 地下水位

No. 3 流量

No. 5 流量

全体総括

- 目立った変動なし □やや変動あり
- 変動あり（注意体制への移行を検討）

期間中の地下水位低下量

- 1m未満ないし増加：B-2、B-4、B-5、B-6、B-7、B-8、B-13、B-14、B-400
- 2m未満：B-15 ■5m未満：B-12、B-12'、B-700 □5m以上：

日降水量

- 15mm未満 □15mm以上 □50mm以上

月降水量

- 80mm未満 □80mm以上 □130mm以上 □200mm以上

概要

■水位変動について

- ①目立った変動なし。
- ②B-4（自記水位計）：期間中の降雨に反応を示さない。期間中の水位は低下傾向を示し、過年度最低水位を下回った。今後も注視していく。
- ③B-5（手計り）：過年度最低水位を上回っている。
- ④B-12（自記水位計）：期間中の降雨に反応を示し、水位が上昇する箇所が認められる。一方、7/1～6の水位は横ばい傾向を、7/7～31の水位は低下傾向を示す。また、過年度最低水位を下回る状況が続くため、今後も注視していく。
- ⑤B-12'（自記水位計）：期間中の降雨に反応を示し、水位が上昇する箇所が認められる。一方、7/1～6の水位は横ばい傾向を、7/7～31の水位は低下傾向を示す。また、過年度最低水位を下回る状況が続くため、今後も注視していく。
- ⑥B-14（自記水位計）：期間中の降雨に反応を示さない。期間中の水位は横ばい～低下傾向を示す。また、過年度最低水位を下回る状況が続くため、今後も注視していく。
- ⑦B-15（自記水位計）：期間中の降雨に反応を示さない。期間中の水位は低下傾向を示す。
- ⑧B-700（自記水位計）：期間中の降雨に反応を示さない。期間中の水位は横ばい～低下傾向を示す。

■流量変動について

- ①No. 3（自記）：期間中の降雨に明瞭な反応を示し、流量が増加する箇所が認められる。一方、7/1～28、7/29～31の流量は0L/minを記録した。
- ②No. 5（自記）：期間中の流量は0L/minの状態が続く。
⇒無降雨・少雨時や大雨の数日後において、当該地点の上流域の沢水は観測地点に達する前に地中に浸透することで、流量の計測値がゼロとなっている状況である。
⇒当該地点の上流域で一定の降水量の条件(例えば時間降水量、連続降水量)を満たした時に観測地点で流量が確認されると推定される。

■降水量について

- ①6月の日最大降水量：6/3の50.0mmである。
⇒7月の日最大降水量：7/13の5.0mmである。
- ②6月の降水量：91.0mm、7月の降水量：5.0mmである。
昨年6月は214.0mm、7月は46.0mmである。
平年値（敦賀アメダス）は6月は144.1mm、7月は204.0mmである。

一部地点において、7/6および7/28に地下水位または流量の上昇が認められたものの、雨量計では降雨が記録されていない。雨量計の点検の結果、機器の故障等は認められなかった。

一方、敦賀アメダスでは降雨が記録されていることから、本事象は局所的降雨の影響によるものと解釈できる。